

総合的な土砂災害対策検討WGで議論すべき論点について

昨年発生した土砂災害における主な課題

【論点1】防災気象情報や避難勧告等の防災情報の伝達（前回審議、今回審議）

- ① 避難準備情報の活用
 - ・ 暗くなるまでに早めに避難準備情報を発令したケースがなかった
- ② 夜間での避難勧告の発令の遅れ
 - ・ 結果的に、災害発生前に避難勧告を発令したケースが少なかった
- ③ 夜間での指定緊急避難場所の開設
 - ・ 公民館や小学校など、緊急避難場所として夜間に開設するのが難しかった
- ④ きめ細かな避難勧告の発令
 - ・ 避難勧告の対象とする災害を明確にした例や、土砂災害についてメッシュ情報を踏まえて避難勧告の発令範囲を設定した例が少なかった
- ⑤ 防災情報の住民への確実な情報伝達
 - ・ 土砂災害警戒情報や避難勧告等の夜間での住民への伝達が十分にできなかった

【論点2】避難勧告等を受けた適時適切な避難行動の整理（今回審議）

- ① 災害種別ごとの避難場所の区別
 - ・ 土砂災害の危険区域内にある他の災害のための避難場所で被災した
- ② 夜間での適切な避難行動
 - ・ 「避難勧告＝指定緊急避難場所への立ち退き避難」という認識をしている者が多かった
- ③ 自主的な避難行動
 - ・ 避難勧告が発令されなくても自主的な避難で助かった者がいた
- ④ 自主防災組織の活用
 - ・ 自主防災組織がうまく活動して避難できた例が少なかった

【論点3】森林の適切な整備・保全（前回審議）

- ① 森林の適切な整備・保全
 - ・ 森林は土砂の崩壊・流出の防備等の機能を発揮しているが、極端な豪雨等に見舞われた際、沢筋等において、山腹崩壊や土石流とこれに伴う流木が見られた

【論点4】発災後の迅速な復旧策（今回審議）

- ① 応急対応の効率化・迅速化
 - ・ 行方不明者の確認の迅速化が必要
- ② 市街地で大規模な土砂災害が発生した場合の迅速な応急復旧
 - ・ 住宅の間の道路が細く、土砂の撤去が容易ではなかった
 - ・ ボランティア活動の調整が必要
- ③ 被災者の心のケア
 - ・ 広島のと砂災害において、D P A T（災害派遣精神医療チーム）がはじめて運用された

【論点5】まちづくりなど土地利用のあり方（今回審議）

- ① 土砂災害警戒区域等が未指定の箇所で多数の人的被害が発生
- ② 砂防施設が未整備の箇所で甚大な被害が発生、一方で整備済みの施設は被害を防止・軽減
- ③ 危険箇所における移転誘導支援等の対策の強化

総合的な土砂災害対策検討ワーキンググループ ワーキンググループの進め方（案）

回数	時期	検討内容
第1回	12月4日	① 平成26年に発生した主な土砂災害について ② 8月20日に発生した広島市土砂災害について ③ 本WGで議論すべき論点について ④ 各論点に関する議論 ・ 防災気象情報や避難勧告等の防災情報の伝達【論点1】 ・ 森林の適切な整備・保全【論点3】
第2回	1月29日	① 各論点に関する議論 ・ 防災気象情報や避難勧告等の防災情報の伝達【論点1】 ・ 避難勧告を受けた適時適切な行動の整理【論点2】 ・ 発災後の迅速な復旧策について【論点4】 ・ まちづくりなど土地利用のあり方について【論点5】
第3回	3月下旬	① 各論点に関する議論 ・ 防災気象情報や避難勧告等の防災情報の伝達【論点1】 ・ 避難勧告を受けた適時適切な行動の整理【論点2】 ② WGとりまとめ骨子の議論
第4回	5月	① WGとりまとめ案の議論
—	5月末	WGとりまとめ公表